京都市ごみ減量推進会議・会報誌 2012. 夏

こごみ日和

52号

よく食べ、よく遊び、よく寝て、よく糞をする。シンプルな生き方、動物園で見つけよう！

生き物としてのそんな
当たり前のことを、
動物たちに教えられる。
彼らからひとを見ると、
そこにはどれほど
無駄な物が
映るのだろう？

特集

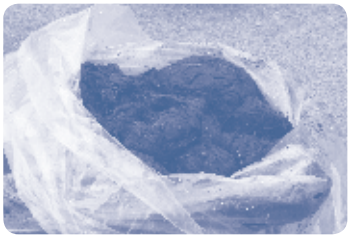
動物たちの生命（いのち）に触れ、仲良くなれる場所
～京都市動物園～

京都・岡崎にある京都市動物園は、小さな子どもからシニアまで、幅広い年齢層の支持を集める人気スポットです。普段はなかなか知ることができない動物舎の裏側や、平成27年度の完成を目指して整備が進められている「近くて楽しい動物園」創りのビジョンを、じっくりと伺いました。

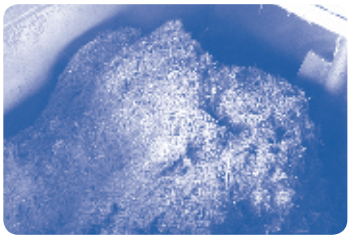
ゾウの糞は貴重な資源！

長い鼻、愛らしい目で人気者のアジアゾウは、一晩で何と40kgもの糞をします。毎日大量に排出される糞を有効活用できないかと、京都市動物園では平成24年４月からゾウの糞の堆肥化実験に取組んでいます。ゾウのえさは主にワラなので、糞と言ってもほとんどが繊維質、臭いも気になりません。この糞を、微生物の力によって48時間発酵させることで、胃酸などの有害物質が取り除かれ、良質の堆肥に変身します。小中高校生を対象としたサマースクールでは、このゾウの糞を通して、動物たちの暮らしを学び、理解を深めるためのプログラムも実施される予定です。現在飼育されているゾウは１頭ですが、平成27年度までには複数頭の飼育を目指しており、本格的な堆肥化に併せて、できあがった堆肥を市民の暮らしにどう活かしていくのか、具体的な検討が始まっています。

ゾウの糞



堆肥



たくさんの希望をくれるゴリラの赤ちゃん

平成23年12月、明るいニュースが届きました。絶滅が心配されるニシゴリラのモモタロウ・ゲンキ夫妻に、待望の赤ちゃん（オス）が生まれたのです。動物園には、絶滅危惧種の個体数を増やし、種を確実に伝える、という非常に重要な使命があります。京都市動物園では、ニシゴリラの繁殖に長年取組んでおり、新しい生命の誕生は私たちに多くの感動と希望をくれました。また、京都大学野生動物研究センターと連携しながら、飼育員自らが動物たちの祖国を訪ね、現地での生態環境を調査・研究し、そこで得られた事実を来園者にも積極的に伝えています。来年度からは、同じく絶滅危惧種のツシマヤマネコの保護増殖事業も本格的に始まります。

動物たちの絶滅という危機が各国で起こっているということ、かけがえのない動物たちの生命を通して、地球でいま何が起きているのか、どうすればより多くの生き物にとって住みやすい環境を守ることができるのかについて、みんなで考えるきっかけとなることを願っています。

動物たちに、一生健康に、幸せに生きてもらいたい

「動物たちは、私たちのために生れ故郷を離れ、動物園で一生を過ごします。だからこそ、私たち飼育員は福祉の気持ちを持って、一生懸命彼らのお世話をさせてもらっています。彼らには、一生健康に、そして幸せに生きてもらいたい。飼育員は皆、動物たちを家族同様に想い、時に喜び、悲しみ、共に成長しています。」秋久副園長の動物たちに対する想いがひしひしと伝わってきます。野生動物とひととを繋ぐ彼らの存在は、地球が人間だけのものでないことを改めて教えてくれます。

近くて楽しい動物園

「ひとは一生のうち、４度動物園を訪れると言います。１度目は子どもの頃、２度目は大人になってから、３度目は子どもと一緒に、そして、４度目は孫と一緒に、です。」獣医師の和田係長が、しみじみと語ってくださいました。なるほど、動物園の楽しみ方は訪れる年齢によって様々。しかしそこには、動物に触れたい、動物のことを知りたいという変わらぬ欲求があります。動物の愛らしさや賢さに親しみを感じたなら、彼らと仲良くなれるチャンスです。「近くて楽しい動物園」とは、動物たちと飼育員さん、そして来園者との距離が、更に一歩近づく空間を目指しているのではないでしょうか。

取材日：平成24年５月９日　取材：松村　香代子

シリーズ
みんなで考える

いらっしゃい！ 今日からあなたが主人公！

～北野商店街を訪ねて～

地元の人々から「天神さん」と呼ばれ親しまれる北野天満宮からほど近く、千本中立売から一条通下ノ森にかけて賑やかなアーケードが連なります。古くから天神さんの門前町として栄えてきた北野商店街。周辺には千本釈迦堂や平野神社など、歴史の重みを感じさせる名所旧跡が数多く残っています。明治33年から昭和36年まで、京都市電（路面電車）の北野線が走っており、北野商店街は大勢の参拝者を迎えてきました。市電の廃線後、かつて「北野車庫」と呼ばれた車庫の跡地は京都市バスの車庫となり、そして現在では京都こども文化会館（エンゼルハウス）として、今も地域の憩いの場となっています。

北野商店街の挑戦

北野商店街が「エコ商店街」の活動を積極的に始めたのは今から約３年前。ある日、KBSラジオを聴いていた北野商店街振興組合の小川理事長が、出町商店街でのエコ商店街の取組を知り、‘北野商店街でも何か環境に良いことをやりたい’、と奮起されたのがきっかけです。これまでも、商店街有志で組織する「ウェル北野協同組合」では、マイバッグの持参などにポイントを付与する取組をされていましたが、「西の北野、東の出町」と言われるほど繋がりの深い出町商店街での活動が良い刺激になり、“ぜひ、商店街挙げての取組を”と思われたそうです。

北野商店街の「エコ商店街」としての取組の一つが、毎年２月に開催される「北野エコチケットキャンペーン」。イベント参加店で、マイバッグの持参や古着の回収などに協力すると、エコチケットがもらえます。これを５枚集めると、エコ商品が当たるお楽しみ抽選会に１回参加できるという仕組みで、評判は上々、抽選場所となったウェル北野事務所は連日たくさんの人で賑わいました。

さらに、北野商店街では毎年夏祭りを開催。会場となる京都こども文化会館前は、たくさんの家族連れで賑わいます。昨年からはリユース食器の導入も始め、エコイベントとしての期待も高まる中、今年は30回目という節目の年を迎えます。商店街が地域の人々に潤いと元気を届けられるように、地域の人々も商店街に誇りと愛着を持てるように、小川理事長をはじめ、商店街と地域が一丸となって「エコ商店街」としての魅力発信に取り組んでいます。

商店街を取り巻く環境

近年、地域密着型の商店街では、店舗数・組合数・利用者数の減少が続き、社会問題にもなっています。北野商店街も例外ではなく、「朝は、80代のお得意様がほとんど。昔からのお客さんは多いですが、その下の世代には、まだまだアピールできていないんです。」とため息まじり。ウェル北野協同組合では月に２回の売り出しやポイント3倍サービスに取り組んだり、商店街の核店舗の一つであるスーパー「メッサ北野」でも週に２回チラシを発行したり、あの手この手でお客様を呼び込みますが、昨今の安売り競争の中、売上は減少傾向です。戦後の商店街の賑わいが、懐かしく偲ばれます。

しかし、このような状況だからこそ、他にはないアイデアが生まれるチャンスです。高齢者がゆっくりと買い物ができるように、商店街のあちこちに座り心地の良いベンチを置いてみる、屋根のある休憩場所を用

意する、気軽に水分補給ができる場所を作る、など、様々なアイデアを検討中。常にお客様と対話しながら商売をしている商店街だからこそ気が付ける、潜在的なニーズがあります。

今、高齢者が日々の楽しみとして、安心して買い物ができる、そんな商店街が求められているのではないでしょうか。高齢者に優しい商店街は、全ての世代にとって利用しやすい商店街でもあります。

また、北野商店街は仁和小学校の通学路にもなっており、地域の見守り隊としての役目も担っています。毎年、小学３年生が職業体験にやってくるため、彼らにとっても非常に身近な存在です。彼らが大人になった時に、「買い物に行きたい」「働きたい」と思える商店街であるためにも、若い世代に“もう一つの価値観”を積極的に伝えることも商店街の役割です。

未来を繋ぐ信頼関係

その“もう一つの価値観”とは…。「いまは、何でも安ければええ、どんな材料を使ってようと、そんなことはどうでもええ。こんな風潮が怖いんです。より安いものに抵抗がなくなった。本当にええもんには、それ相当の値段が付く。それなのに、買う側にこの意識がない。こうなってしまったら、本来の商売はできません。これが一番怖い。」

小川理事長をはじめ、振興組合の方にお話を伺う中で、見えてきたものは、「商店街には、人と人、人とものとの間に信頼関係が生きている」ということです。途絶えてしまっては二度と繋ぐことができないこの信頼関係を、若い世代に語り継いでいくことで、商店街の未来が変わっていきます。

取材日：平成24年５月９日
取　材：松村　香代子

30回目を迎える北野商店街の「夏祭り」は、2012年7月29日（日）、京都こども文化会館前で開催されます。どうぞ皆様、お誘い合わせの上、お越し下さい！

コラム　見どき　聞きどき　話しどき

蒸し暑さを感じる梅雨どき。こういう季節は、つるんとさっぱり喉越しのよい冷奴がありがたい。

豆腐といえば、やはり京都。いにしえより山紫水明の地と呼ばれた京都は、地下水が豊富に蓄えられている。豆腐は成分の90%が水でできており、京都の地下から湧出するクリアな軟水は、鉄分が少ないため豆腐づくりに特に適しているのだそう。「京都の水は甘い」とまで讃えられ、明治時代には、わざわざ京都の水を東京まで運ばせて豆腐を作らせていたグルメな富豪もいたのだとか。そんなふうに質がよく清潔な地下水が湧きあがる京都には、水の恵みを活かした豆腐の銘店がとても多い。

今回取材をさせていただいた北野商店街にも、明治時代から永く愛され続けている豆腐の老舗「京豆腐 とようけ屋山本」がある。北野天満宮の門前町、現在の一条通七本松の西側に位置する町家のお店で、由緒はあれど、気取りはない。京豆腐一筋に伝統を受け継ぎながらも、豆乳ヨーグルトのようなイマふうスイーツも提供する柔軟さを見せる“町のお豆腐屋さん”だ。僕も妻もこちらの豆腐が大好き。絹漉し豆腐に黒七味をかけていただくと豆の甘み、水の香りがいっそう際立っておいしい。訊けば敷地内に地下60メートルに及ぶ井戸があり、そこから汲みあげる天然水を使っているのだそう。やさしいお味のヒミツはやはり水にあった。

店頭には、石臼を再利用した鉢植え台がある。風情ある和のオブジェとして目に涼しく、リユースの好例に思えた。そしてペットキャップ回収ＢＯＸが設置してあるのが目を引く。ごみを減らすこと、それは命の水を守ること。決して広いとは言えない売り場に、それでも敢えて置かれたこの箱が、やわらかいけれど崩れない豆腐店の所信表明だと感じた。

取材：吉村　智樹

歴史に彩られた地域にエコの意識が花開いて

～教業学区地域ごみ減量推進会議～

教業地域女性会が母体となって立ち上げ

北に二条城、西に神泉苑、町内を歩けば豊臣秀吉が造営した聚楽第の面影・・。ここ教業学区には、数々の歴史が刻まれています。その成り立ちは、明治２年全国に先駆けて市民の力で開校された番組小学校のひとつである、教業小学校（現在は洛中小学校として統廃合）。24町1,167世帯　人口2,126人で構成されるこの地域に教業地域女性会（以下、女性会）が母体となって「教業学区地域ごみ減量推進会議」が立ち上がったのは、平成23年のこと。中京エコまちステーション（以下、中京エコまち）から声がかかり、発足に至りました。女性会で長年にわたり会長を務めてこられた澤崎禮子前会長と今年度から会長に就任された向田米子さんに中京エコまちでお話を伺いました。

前列左から）前会長　澤崎　禮子さん　新会長　向田　米子さん
後ろ中央）中京エコまちステーション　山田　規雅さん

古紙など資源回収は40年以上前から

助けたり助けられたりという地域の結束力を基盤に、教業学区では早くから環境活動に取り組んできました。戦前の大日本国防婦人会を前身とする教業地域女性会は、祭りや芸能、運動会などの地域活動のほか、古紙をはじめとする資源回収を40年以上前から手がけています。「エコとか、環境問題が話題になるずっと前から」との澤崎前会長の言葉には、実績が裏打ちされています。資源回収は、一夜にしてできるものではありません。異物混入など「トラブルはない」そうですが、回収協力への働きかけ、仕組みづくり、出し方のマナーの徹底など、力を尽くされたことがうかがえます。

培われた結束力で、着実な資源回収を実施

教業学区では、毎月末、４日間、各町内に設けた拠点で段ボール、新聞、雑誌、アルミ缶、ボロの５種類を集め、回収業者に引き取ってもらうという流れで資源回収に取り組んでいます。

まず女性会役員さんが、自宅前や地域の掲示板にポスターを貼り出して道行く人に知らせます。回覧板も回し、『女性会だより』でも案内します。回収日になると、早朝から新聞紙、空き缶などが次々持ち込まれます。回収業者が回ってくるのが、午前10時頃。集まった物は、２トントラックに積み込まれ、処理施設に運ばれます。

回収日には、アルミ缶、新聞古紙、段ボールなど資源が列ぶ。
５月25日澤崎さん宅の隣の拠点で撮影。手前は澤崎さん、奥は中京エコまち中川さん

資源回収をスタートした頃と、現在では中京区あたりの住宅事情も市民の暮らしも変化しています。それでも回収量は「あまり変化がない」そうです。段ボールなど「出勤前に、若い人が持って来られますよ」とのこと。変わったのは出し方で最近はビニール袋に入れた新聞紙が多いのが特徴だとか。各町のほか、授産施設、１企業が加わった教業学区の資源回収、平成23年度に集められた51,000キログラムは、学区の皆さんの結束力の証しとも言えます。※数字は段ボール、新聞、雑誌、アルミ缶、ボロの回収量（平成23年４月～24年３月まで）の合計です。

若い層にも参加を呼びかけ

長年にわたり環境活動をしてきた教業学区。地域ごみ減量推進会議立ち上げをきっかけに、新たな展開が始まっています。３年前から育友会とともに手がけた食育事業は、助成金を活用していっそう充実させ、昨年は鯖寿司や麩料理を作り好評を得ました。教業まつり（８月開催）や運動会（10月）では、中京エコまちの計らいでリユース食器を導入し、麺類や豚汁などを提供。環境に配慮した催しを実施しました。

京都市の中心地には、マンションが次々と建設され、新しく流入する市民が絶えません。新しく入って来られた住民の協力が得られないという悩みを抱える地域が少なくないなか、教業学区では、澤崎前会長、向田新会長をはじめ、女性会の役員さんが各世帯を回り、資源回収や行事への参加を呼びかけています。その成果があってか、「若い人の動きもありますよ」と、向田新会長。今後さらに積極的に声かけし、新旧住民の差、世代の差をも越え、エコまちとのパートナーシップで、住みやすい教業学区にしたいと、強く語られました。

歴史に彩られた伝統の地は、環境先進の地でもありました。

取材日：平成24年５月８日
取　材：森田　知都子

京都市ごみ減量推進会議の ごみ減量につながる！役立つ！ウェブサイト

もっぺん http://www.moppen-kyoto.com/

大事にしていたものがダメになったら、直して「もっぺん（もう一回）」使いたい。

そんな時に、「もっぺん」がお店探しをお手伝い。

こんなものも、あんなものも直せちゃう。是非のぞいてみてください！洋服や靴、鞄などの修理のお店が、180以上も紹介されています。

京都生ごみスッキリ情報館 http://www.sukkiri-kyoto.com/

京都市の家庭から出るごみのうち、重さにして約４割が生ごみ（年間約８万トン！）。その処理には、１トン当たり約6万円がかかりますが、まだ食べられるのに捨てられているものもたくさんあります！**「使いキリ　食べキリ　水キリ」**の３つの「キリ」で、「生ごみ」を減らす方法を紹介しています！

リユースびんマップ http://www.reusebin-kyoto.com/

一升びんやビールびんに代表される「リユースびん」は、ごみにもならず、二酸化炭素も減らせる、夢のような容器です。

一升瓶やビール瓶を返すところを知りたい！そんな時は、リユースびんマップをクリック！最寄りの回収場所が探せます。

ようきにへらそう！ http://yoki-heraso.jp/

家庭から出るごみのうち、容積にして約６割が容器包装ごみ。このサイトでは、スーパーマーケットでのトレイの使われ方や回収状況などについて、北区のスーパーを調べた結果などを紹介しています。また、お店で使われる容器包装を、楽しく減らしていく「ようきにへらそう!キャンペーン」の取組内容を、随時紹介していきます。

市役所前フリーマに関する情報は ⇨ http://www.plusone.ne.jp/（プラスワンネットワーク）

“いらなくなったらいる人へ”をテーマに、リユース（再使用）の促進を目的として、市役所前広場で開催しているフリーマーケット。毎回、たくさんの人で賑わいます。

「出店したい！」「いいもの探したい！」など、開催日や応募方法を御確認いただけます。

また、「今日はお天気があやしいけど、開催される？」など、当日の開催状況を知りたい場合は、こちらで御確認ください！

http://ameblo.jp/kyoto-plusone/

予告：京都市ごみ減量推進会議のウェブサイトは、今夏リニューアル予定です！楽しみにお待ちください！！

事務局より

ごみを減らすことは、暮らしを見直すこと。昔と今の生活は違うけれど、物や食べ物を大切にする気持ちは同じ。
節電と合わせて、皆さんそれぞれが、できることからコツコツと！ですね。

●４月に事務局メンバーが交代となりました。新たなメンバーをご紹介します！

武田満彦（たけだみつひこ）

はじめまして。前任者山田に代わって事務局にまいりました。少しずつ、周りが見えてきて、「やおよろずの神」ともいい、「山川草木悉皆仏性」ともいう、すべての存在に「こころ」がある、という教えに思いをはせ、資源に変わる「ごみ」を黄色い指定袋から救い出し、再び、活かすことが仕事かな、と思う今日この頃です。

河井裕幸（かわいひろゆき）

前任者の乾と同じく「環境共生推進員」です。３年間のエコまちステーション勤務を経て、事務局に配属された初の職員となります。前所属での経験を生かし、エコまちステーションと連携して、皆様とごみ減量を通じた、地域づくりにご協力させていただきたいと思います。

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみ日和 No.52

〒612-0031　京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL:075-647-3444／FAX:075-641-2971
E-mail: gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL: http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

京都市ごみ減量推進会議　検索 で検索できます

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。当会議では、ともに活動する会員を募っています。

詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議　普及啓発実行委員会
（会報誌・ホームページ小委員会）

古紙を含む再生紙に大豆インクで印刷しています。 PRINTED WITH SOY INK Trademark of American Soybean Association